

安全運転チェックポイント...

安全運転チェックポイント...

夜間の視界特性

ポイント1

トラックのライトの光で見通せる距離は乗用車より短い。



対歩行者・自転車との死亡事故の大半は夜間に発生しています。

これは、夜間の暗さの中で歩行者などの発見が遅れがちになるからです。

特にトラックの場合、運転席が高く、ドライバーの目の位置とライトの位置の間隔が大きいため、ライトから照射された光が物に当たって反射して返ってくることで、即ち「光の再帰性」が乗用車よりも悪いため、歩行者などの発見が遅れがちになります。

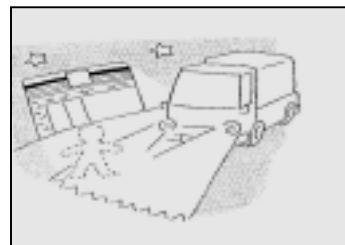
したがって、トラックは夜光反射材をつけている歩行者や自転車でも、乗用車に比べて発見が遅れがちになり、路肩に駐停車している車に対しても、その発見が遅れてしまうことが少なくありません。

また、歩行者や自転車からは、トラックのライトの高さは自分の目の高さに近く非常に明るく見えるので、トラックにも自分がよく見えるはずと勘違いし、危険があればトラックの方で避けてくれる。減速してくれる。停止してくれると思込み、危険な横断等をしてきます。

トラックの場合、ライトの「光の再帰性」が乗用車よりも悪いので、歩行者などの発見が遅れがちになることを十分に自覚することが大切です。

ポイント2

コンビニの明るさに幻惑、歩行者等を見落としやすい。

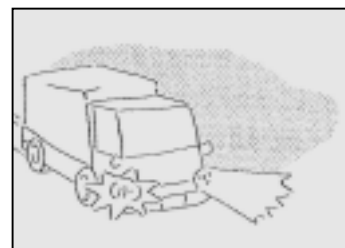


深夜、郊外のコンビニ前に駐車している車に追突したり、付近の道路を横断している歩行者や自転車をはねるというトラックの事故が多発しています。これは、もともと光の再帰性が悪いところへ、ドライバーの目がコンビニの照明に幻惑され、その周辺の暗がりでも横断している歩行者などの発見がしにくくなった結果の事故なのです。

暗がりの中で照明が際立つコンビニ等を発見した時は、周辺の横断歩行者などの有無をしっかりとチェックしてください。

ポイント3

夜の暗さを自覚し、上向きライトをこまめに使う。



市街地では、ドライバーは夜間であっても、昼間と大差なく事物が見えていると感じながら運転する傾向にあります。しかし、いかに建物等の間接照明があつたり、ライトを点灯していても、やはり夜間は暗く、特に歩行者や自転車は昼間に比べ見づらいので、このことをしっかり自覚することが大切です。

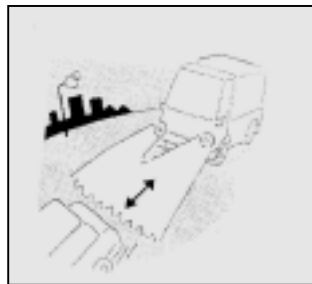
また、市街地では、ライトを終始下向きにしたままで走ることが習慣になっているドライバーが多いよう

ですが、状況に応じた適切な対応を取ることを心掛けましょう。

歩行者・自転車事故が発生しやすい暗い生活道路や雨の日の道路を走行するときは、ライトでの見通し可能な距離を十分に自覚し、スピードを控え目に保ち、必要であれば上向きライトに切り替えて走ることが大切です。

ポイント4

夜間の道路横断者、特に右方からの横断者には要注意。



夜間は車のライトが道路右側にあまり照射されないため、右方からの横断者の発見遅れによる事故が多発しています。それだけに、左方からの横断者に比べ、発見が遅れがちになることをしっかり自覚し、左方に偏ることなく右方への警戒も怠らないことが大切です。

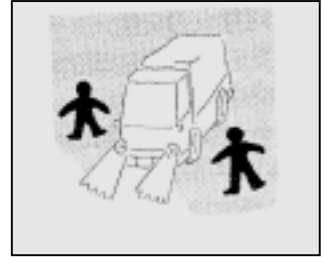
また、夜間対向車の直後から横断してくる歩行者は、対向車のライトに幻惑され発見しにくくなるので、横断者の有無が確認できるまでは減速進行することが必要です。

夜間は前方に信号が有る無しにかかわらず、横断歩行者の有無をしっかりと確かめること。

また、横断歩道外を横断する歩行者も多いので、昼間以上に警戒心をもってチェックすることが必要です。

ポイント5

夜間は、無意識に車間距離を詰めがちになる。



高い運転席から見下ろすトラックの前方視界は、夜間は乗用車以上に直前の路面だけがライトで照らされることから、その先は視界が閉ざされ、暗闇を見て走ることが多くなります。

このような暗闇を見つめていると、意識すると否にかかわらず、誰もが大きなり小なり本能的な不安感に襲われます。このため、特にトラックは、暗闇の中に先行車のテールランプを発見すると、前照灯の光で先行車の後部全体をとらえることによって視界の立体感を得ようとして、無意識にもスピードが上がり急接近する傾向があります。

事実、トラック同士の車間距離は、昼間よりも夜間の方が明らかに短くなり、集団追従することが多くなるという調査結果があります。

車間距離を詰めて、前照灯の光で先行車の後部全体を明瞭にとらえて走るほうが、心理的には安定した、「走りやすいポジション」となりますが、ここには大きな危険が待ち受けています。例えば、スピードを上げて急接近したときに、先行車のスピードが予想外に遅かったり、先行車群のスピードが予想に反して低下したりすると、気付いたときにはもう遅く追突してしまうといったケースです。

トラックの走行特性を十分に自覚し、潜在している危険に対する警戒と防備を怠らず、トラックの夜間の視界特性を考慮に入れて十分な車間距離を保ちながら走行することが大切です。